

コティングリー妖精事件

——ガードナーの鞆が語る新事実——

日時 2021年6月5日（土）13時

場所 うつのみや妖精ミュージアム

講師 井村君江（妖精ミュージアム名誉館長）

（1）背景と人物

Cottingley 村は、イングランド北東部、ヨークシャー州、ブラッドフォード近く。

メイン・ストリート31番 アーサー・ライト家

アーサー・ライトの娘エルシー（当時16歳）

ライトの妻ポリーの妹、アニー・グリフィスの娘フランシス（当時9歳）

1917年7月南アフリカから軍人の父親転勤、滞在の為に来訪。娘達が仲良しになる。

ライト家の庭続きの小川（ベック）。妖精と遊ぶ「少女と妖精」5枚の写真（創作）。

エドワード・ガードナーが調査。コナン・ドイルが記事を書く。

A.コナン・ドイル『妖精の到来』（The Coming of the Fairies 1922）

ジョー・クーパー『コティングリー妖精事件』（The Case of the Cottingley Fairies1999）

（2）コティングリー村の昔と今の相違点。

①ケルトの遺跡の森が新興住宅に変化。小川（ベック）沿い40～50メートル森残る。

「オーベロン・ロード」「ティターニア・クロス」「ライサンダー・ウエイ」妖精王。

②小川のケルト橋の先、岡の内側は村（城壁,フォート）

リーズ大学のブラザートン・コレクション（少女の作為、第3のベレーの少女）

66年後、83歳のエルシー創作と告白。コナン・ドイルに考慮。長いフェイク、ギネス

（3）エドワード・ガードナーの鞆の中身。

①超常写真のコレクション 宙に浮く赤ん坊の写真、紳士と亡霊の写真等。

②ガードナーの妻アデレードの手紙（霊媒者（グラント夫人）に対する意見、コダック社等写真館）。

（4）考慮すべき点。

①妖精＝超自然の生き物 現実には存在しない。幻想的（想像、夢）創造。

②人間の能力の限界、宇宙的未来の可能性、脳力開花の可能性の未来。

③コナン・ドイルの著作は、妖精に関するウインザー朝の一文献。

④美術を作る道具としての写真。

⑤現実を映す写真と他の世界を映す写真。

資料：

『妖精の到来』（The Coming of the Fairies 1922）A.コナン・ドイル・井村訳アトリエサード2021）、

『コティングリー妖精事件——イギリス妖精写真の新事実』（井村君江・浜野志保編著青弓社2021）、

『コティングリー妖精事件』ジョー・クーパー（井村訳 朝日新聞社1999）。